

東京慈恵会医科大学大学院看護学専攻博士前期課程の 教育理念・目的

慈恵医大の創設者、高木兼寛（以下、高木）は、「医師と看護婦（師）は車の両輪の如し」という思想をもとに我が国で最初の看護学教育機関を明治18年に開設し、現在までの120年以上、本学では看護学教育が行われている。

高木が残した「病気を診ずして病人を診よ」という思想は慈恵医大のスクール・ミッションであり、本学では、高度な学識と技術を有するのみならず、対象を全人的にとらえることのできる人間的に優れた良き医療人の育成を教育の基本方針としてきた。「病気を診る」ためには、医学と看護学のレベルを高めることが不可欠であるが、「病人を診る」ためには、医療倫理、医療政策、少子高齢化対策、医療や健康に対する国民の意識の変化など、医療を取り巻く諸問題に適切に対応できる能力も求められる。このような能力を有する看護職者はチーム医療におけるキーパーソンとしても期待されている。

医療の場において医師と看護職者が真に「車の両輪の如く」活動するためには、看護職者は、より高度で専門的な教育を受けることができる機会が不可欠である。高度の看護を実践し指導者になろうとする看護職者に対して、専門的知識と研究能力を有する指導者のもとで、より高度の学修と研究を行う機会を提供することは、本学の使命のひとつである。

本大学院は、大学院設置基準第3条に基づき、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことにより、高度に専門化した知識と技術を備えた看護の高度職業専門職を養成することを目的とする。さらに、本大学院では実務経験がある看護職者が看護の仕事を経営しながら学修する教育環境を保障し、大学院生の看護キャリア発達に貢献することを目的とする。

東京慈恵会医科大学大学院看護学専攻博士前期課程 ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

◇ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針＝育成する人材）

本博士前期課程では、所定の修業年限在籍し、修了要件となる単位を取得するとともに、修士論文の審査及び最終試験に合格し、下記的能力・姿勢を有するものに学位を授与する。

1. 課題解決能力
看護実践において科学的根拠に基づいて課題を分析し、最善策を見出す能力
2. 看護倫理を追究する姿勢
学祖高木兼寛の“病気を診ずして病人を診よ”の理念に従って看護の対象者とのパートナーシップに基づいて協働し、対象者の最善の利益を追究する姿勢
3. 多職種協働・地域医療連携能力
保健医療福祉システムの中で、学祖高木兼寛の“医師と看護師は車の両輪の如し”の理念に従って看護の専門性を活かし多職種と連携・協働する能力
4. リーダーシップ
システム改善に向けてメンバーの力を活用し、自ら組織を主導する能力
5. 国際的視野から看護を考える能力
国際的視野から日本の看護の特性を理解し、看護を考える能力

◇カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

ディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の方針に基づき教育課程を編成する。

1. 課題解決能力を育成するために、「看護研究方法」を共通必須科目として、「医療統計」を共通選択として 1 年次に、「感染防御論」を共通選択として 2 年次に配置している。また、「看護学特別研究Ⅰ」「看護学特別研究Ⅱ」において修士論文を全学生に課している。さらに、専門科目で強化している。
2. 看護倫理を追究する能力を育成するために、「看護倫理特論」「研究倫理特論」を共通必須科目として、「看護理論特論」を共通選択として 1 年次に配置し、「看護歴史学」を共通選択で 2 年次に配置している。さらに、専門科目で強化している。
3. 多職種協働・地域医療連携能力を育成するために、「保健医療システム論」「コンサルテーション論」「看護管理学概論」を共通選択科目として 1 年次に配置している。さらに、専門科目で強化している。
4. リーダーシップ能力を育成するために、「医療者教育論」を共通必須科目として、「看護教育特論」を共通選択科目として 1 年次に配置している。さらに、専門科目で強化している。
5. 国際的視野から考える能力を育成するために、「国際医療論」を共通科目として 2 年次に配置している。さらに、「看護学特別研究Ⅰ」「看護学特別研究Ⅱ」で強化している。